

川のワークショップ 報告書

グループスタッフ

リーダー：石川・副リーダー：湯浅・辻・二本柳・二本柳（麻）・塩尻
グループ外協力会員：杉田（陸班）・協議会会員外：村井（保健師）

と き 平成 17 年 5 月 28 日（土）～ 29 日（日）

ところ 滝川市ラウネ川（河跡湖）と石狩川 天候 晴れ

【28日】

部 「河川利用者・防災担当者のための安全確保及び救助技術の基礎訓練」

報 告

8：30 ～ 12：00

【目 的】 本協議会の活動を前に取得したレスキュー3 ジャパンのレスポンドークラスの活動を踏まえた訓練を行い、実践のレスキュー体制の確立を目指す。

講 師 馬場仁志 先生 レスキュー3 ジャパンインストラクター

参 加 者 まちづくり・川づくり協議会

対象者：レスポンドークラス資格者と消防職員

参加者：岡田・森下・岡（消防）・千葉・近藤・加藤・沼倉・齋藤・山中
・山中有・石川・湯浅・二本柳麻・二本柳 計 14 名

訓練内容

座学・・・川の科学館

石狩川リバーインテリジェント認定制度においてリスクマネジメントに基づき、事前に危険予見回避を行う上で、レスキュー3 ジャパンの基本的な考えを座学でおさらいした。その中で特に主催者が行政・企業・ボランティアに関わりなく責任は同じであり、仮に参加募集要項に「一切の責任は負いかねない」と記載があっても、責任を逃れることはできないし、あくまでも参加者の心構えとして促すものであるとの説明がありました。

実技・・・徳富川下流左岸（石狩川合流点300m付近）

ホワイトウォーターフローポジション・アグレッシブスイミング・レスキューロープなど基本的なおさらいをおこなった。



滝川市建設水道部長 挨拶



馬場仁志先生 講義



講義状況



実 技



浅瀬横断 担架



アグレッシブスイミング



レスキューロープ訓練



浅瀬横断

【28日】

部 「Eボート操作・Eボートを使用した救助技術の基礎訓練と検証」

14:00 ~ 16:00

報告

【目的】 Eボートの購入にあわせ、その操作方法を学ぶとともに、内水災害発生を想定し、障害物によりエンジン付ボートの利用が困難な場合を想定し、Eボートにおける救助訓練をシュミレーションする。

講師 帯広エールセンターの太田昇先生・千葉よう子先生・千葉利光先生

参加者 まちづくり・川づくり協議会会員及び来賓（1名）と消防（1名）

参加者 安達・沼倉・松原・森下・岡・近藤・加藤・越後（弘）

・山中・山中有・岡田・石川・湯浅・辻・二本柳麻

・二本柳・齋藤・新谷 計18名（敬称省略）

消防 4名（視察・担架訓練協力）

訓練内容 Eボートの組立方法、使用上の注意、Eボートの利点欠点、操作方法、要救助者の引き上げ、担架による被害者運搬など

座学・・・Eボートとは、Eボートの利点欠点（別紙資料により説明あり。）

実技・・・場所（ラウネ川（河跡湖））

組立訓練・操作訓練・担架輸送訓練

映像はDVDで保存



副会長 挨拶



Eボートについて説明



組立て



操船訓練



操作訓練



救助者を担架にて乗船（検証）



担架乗り入れ



担架を積んだ状態で移動

消防職員の評価：

ボートによる内水災害時（静水）の寝たきりなど障害者に対する救助の場合に有効であると考え、要救助者にも PFD 装着を行うと良いのではと考える。また、座席を取り外し、低い位置で担架を置くほうが安定する。

協議会評価

担架を支える人が3名乗船しており、要救助者と合わせて4名を載せて、漕ぎ手2名では少なく流れがあった場合には流される可能性もあるので、前方向に4名の漕ぎ手を置き、担架は前後2名で支える。

担架にベルト固定しているようだが、落水時、担架と一緒に落ちてしまった場合、救助することが難しくなるので、固定するようなものはすべてフリーにして乗せたほうが良いのではないだろうか。

考 察：

E ボートは有効であると思われるが、実際の災害時を想定した消防における訓練・検証を行った上での災害時の利用が求められる。



E ボート片付け



講師講評

交流会

ふれ愛の里 コテージB棟

18:00 ~

(司会 堀下事務局次長)

出席者 馬場・岡田・太田・千葉(よ)・千葉(俊)・田村市長・高木・安達・沼倉・
上田・堀下・北野・新谷・越後(弘)・松原・森下・千葉・近藤・加藤・山中・
山中有・石川・辻・二本柳麻・二本柳仁・湯浅

計26名

【29日】

部 「Eボート操作の体験・実践シミュレーション」

報 告

【目 的】 前日のEボート操作取得者の実地訓練及びEボートの体験を合わせて実施する。

講 師 帯広エールセンター

参 加 者 安達・沼倉・森下・近藤・加藤・高木・堀下・越後（幸喜）・石川・湯浅・辻・二本柳仁・麻衣子・塩尻・齋藤

計 17名

帯広の講師 3名で 計 20名

講師の馬場さんと岡田さんはカヌーに乗船。

訓練内容 石狩川右岸（雨竜側の南伏古排水機場スタート ～ 石狩川左岸の蛸の首樋門上流ゴール L=3.5 km）

実際に石狩川でEボートを操作し、流れと風に合わせた舵取りを体験し、川の未経験者の一般会員を乗せて実践した。

また、一般会員へのセルフトークや安全指導方法などを実践した。



スタート（安全指導・組立て）



ゴール（1艇目）



ゴール (1 艇目)



ゴール (2 艇目)



2 艇目 降船状況